

変化をおそれず、挑戦し、 未来を切り開く

市制100周年という大きな節目を越え、川崎市は今、“次の100年”への新たな歩みを進めています。今回の「政策情報かわさき」の特集テーマは、「未来のかわさきを展望、次の100年に向けた挑戦」としました。

振り返れば、本市は常に時代の変化を柔軟に受け止め、一歩、さらに一歩と、挑戦し続けるまちとして、155万人の市民を擁する都市へと成長を遂げました。

この挑戦の歩みは、今まさに大きな変革期を迎える臨海部の動きにも表れています。扇島地区では、世界初の商用規模の施設となる国際水素サプライチェーンの液化水素基地整備が動き出し、日本のエネルギー転換を支える挑戦が始まっています。南渡田地区では、次世代の臨海部を牽引する「マテリアル(素材)から世界を変える産業拠点」の形成に向けた取組が進展しており、この地で積み上げられる産業の蓄積は、将来の日本の産業構造に大きな変革を促す可能性を秘めています。

また、本市は、新川崎をはじめ、量子コンピューターが複数台設置される、世界でもまれにみる都市へと発展しようとしています。量子技術等の「知」と「人材」、さらに、創業やマテリアルなどの本市の産業の強みが交わることで、新たな価値を生む土壌が整ってきています。ここから生まれる技術は、次の100年を支える産業基盤となることが期待されています。

さらには、急速な人口減少など、我が国全体が直面する課題を踏まえると、地方自治のあり方を改めて見つめ直すことが求められています。将来にわたり日本全体で持続可能な行政運営を確保するため、「特別市」の実現に向けた取組は、川崎市だけではなく、日本の未来を展望する上でも大きな意義を持つものです。

社会の変化が加速し、将来の予測が難しくさを増す中、変化をおそれず、挑戦し続ける姿勢こそが、未来を切り開く力となります。本市は、次の100年へ向け、新しい価値を創り出す都市として、着実に歩みを進めてまいります。



川崎市長 福田 紀彦